

1981年冬の例会報告

(事務局)

1981年冬の例会は、12月23日、24日の2日間にわたって開かれました。12月23日には文京区本郷の学士会館にて一般講演が、12月24日には東京大学地震研究所にてシンポジウム「島弧会合部のテクトニクス」が行われました。23日の一般講演終了後、久々に顔を合せた会員約20名はだれがリードするともなく、本郷の赤ちょうちんにもぐり込み、“構造地質の諸問題”について議論に花を咲かせていました。本号には一般講演のうち1論文が、シンポジウムからの2論文が収められています。

○一般講演（12月23日）

二村光一（新潟大学）：鈴鹿山脈の形成機構

五月女順一（新潟大学）：ぶどう山塊の断裂系

三梨 昂・山内靖喜・寺見保正・藤井伸治（島根大学）：山陰地方の構造運動の特性と地震動災害

鈴木茂之（広島大学）：舞鶴地帯の断層

中村和善（京都大学）：紀州四万十累帯音無川帯の構造

鈴木尉元（地質調査所）：堆積盆地の深部構造について

○シンポジウム（12月24日）

「島弧会合部のテクトニクス」——本号に特集されています。

なお、参加者は以下の通りです。

矢野孝雄、卯田 強、野藤孝裕、藤井伸治、中村和彦、植村 武、佃 栄吉、服部昌樹、原 郁夫、寺見保正、鈴木尉元、加藤碩一、小玉喜三郎、木村 正、保柳康一、阿部昌浩、村田明広、於保幸正、久保田喜裕、木村 学、角田史雄、藤田至則、二村光一、国安 稔、五月女順一、品田正一、伊藤谷生、吉田 尚、中村和善、和田幸雄、粟田泰夫、山本玄珠、小坂和夫、鈴木茂之、飯島祥二、三梨 昂、山内靖喜、中野啓二、垣見俊弘、坂本 亨、寺岡易司、鈴木弘明、古宇田亮一、上野一夫、酒井 彰、湯浅真人、早川正巳、天野一男、秦 光男、富田恵子、粟田泰夫、小室裕明、小出仁、脇田浩二、中村一明、豊島剛志、南雲昭三郎、衣笠善博（以上、参加者名簿記名順）

1982年春の例会報告

(事務局)

1982年5月2日新潟大学での地質学会の夜間小集会に春の例会をもちました。内容は以下のとおりです。

1. 総会議事

1981年度会計報告

1982年度の活動計画及び予算

新期役員を選出

1981年度の会計報告及び予算はニュース57-1で報告しています。会費は1,500円から2,000円に値上げされました。また、新会長に鈴木尉元（地調）氏が選出されました。

2. 特別講演

小松直幹（帝国石油）……新潟における最近の石油探鉱